

風と牙

作・演出 岡部 耕大

吾妻姫

悲劇が待っている
「それでは戦さはできません。人を信
頼し、任せ頼らなければ、人は命懸け
では動きませぬ」

頼朝

「人は追い詰めて恐怖させ、背けぬと
思わせて使うものだ」

この物語は、平家追討のため旗揚げをした源頼朝の呼び掛けに応じて、西国の武士団が蜂起した頃の話である。西国武士団を「松浦党」といった。「松浦党」には、伝統と結束力が欠落していた。「西国の武士は、侍なのか海賊なのかわからぬ下劣さではないか」。関東武士の嘲笑いに、一人憤ったのが松浦吾妻姫である。「おぬしら、ここまで侮られてくやしくはないのか。吾妻姫が兄とも慕う軍師渡辺兼光の『人の幸せは、生まれたところで生きて死ぬことに尽きた』という反対を押し切り、松浦党はいざ鎌倉へと馳せ参じた。「おお、そちが待ち焦がれた吾妻姫か」「頼朝殿か、御大将か。噂に違わぬ運しとき殿ごであることよ」。吾妻姫と頼朝の千本松原の対面の日、源義経もまた弁慶はじめ百人足らずの家来を引き連れ馳せ参じた。「兄か」「弟か」。兄弟の再会は感涙に咽ぶものであった。

この日が、三人の運命的な出会いの日であった。頼朝は、疑り深い戦略家であり、謀略戦略を得意とする策士であった。頼朝は吾妻姫に全幅の信頼をおき、事あるごとに源氏の重要な機密を打ち明け相談した。

「御大将、あなたは人を疑うことしか知らないのですか。信じなければ、人は動いてくれません」
「人は背くものだ。予め、人は背くものと考えてすべての計画をしなければ、私のドラマを完成させました」

吾妻姫 「人間がなによりも守らなければいけない約束は、口約束です」

頼朝
「……。(ほひ)

吾妻姫 「あなたは、いずれ味方からの裏切りに会うことになるでしょう」

頼朝
「…………」

ついに、吾妻姫は軍団と共に西国へと退いた。頼朝を諫めた義経も、その逆鱗に触れることなり北へ逃れる。吾妻姫憎しと激怒しながらも、吾妻姫に恋い焦がれている頼朝は、追っ手を西国へ放つた。「吾妻姫を討て!」。ついに、関東武士団と松浦党の壮絶な海戦が始まった……。

「劇は、終局人間を描くことにある」という岡部耕大が、歴史劇に生きる人間ドラマを取り入れ、史実と物語とを織り混ぜながら、いつの時代も変わらぬ男とのうねるような愛と憎し

義経の類い希なき人間性はだれにも慕われ、頼朝を嫉妬させ疑心暗鬼へと追い込むには充分であつた。義経と肝胆あい照らす同志となりつゝある吾妻姫への頼朝の嫉妬は募り、やがて憎しみへと変わっていく。静御前も、野生味溢れる西国の吾妻姫に義経の心が揺り動かされることに嫉妬する。そして、壇ノ浦の合戦……。義経と霸を競う吾妻姫。それは深謀遠慮に長けた頼朝の策略に嵌まり、力尽きるまで先陣争いに挑む二人の姿でもあった。壇ノ浦での源氏の勝利は頼朝を増長させた。義経を邪険に扱い、約束を反古にする頼朝に、吾妻姫は反発した。

岡本 舞 溝口舜亮 黒田隆哉 小淵友加里 菊池貴子 久我美智子 勝呂 誉



岡本 舞



溝口舜亮 黒田隆哉 小淵友加里 菊池貴子 久我美智子



勝呂 誙



服部博行

1995年11月28日(火)→12月3日(日)

	11 28 火	29 水	30 木	12 金	2 土	3 日
2:00		●		●	●	●
6:30	●	●		●	●	

- 前売開始 10月12日(木)
- 御入場料 A席7,000円 B席4,000円
キャンパスシートA席半額(学生当日割引・各回限定20名)
- 電話予約 チケットホン松竹 03-5565-6000
- お問い合わせ・サンシャイン劇場 ☎03-3987-5281

チケットのお求めは、サンシャイン劇場、歌舞伎座、新橋演舞場の各前売窓口
チケットぴあ03-5237-9999/チケットセゾン03-5990-9999/丸井チケットぴあ03-5385-9999/CNプレイガイド03-5802-9999/都内各プレイガイド

サンシャイン劇場

池袋サンシャインシティ文化会館4階/JR「池袋」駅下車東口徒歩15分/地下鉄有楽町線「東池袋」駅下車徒歩5分